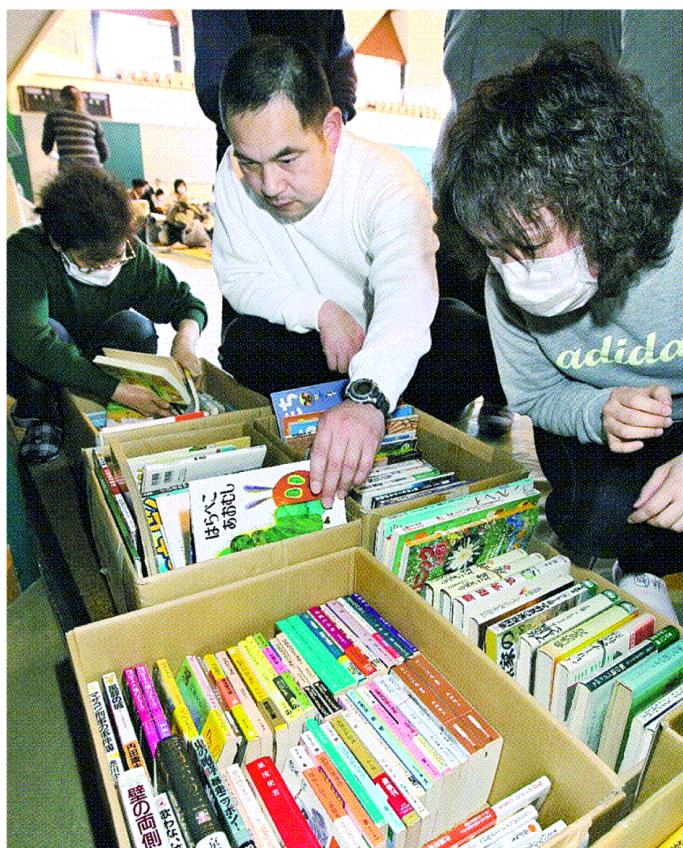


読書で心癒やして

東日本大震災

長岡、三条などの図書館



避難所に本差し入れ

東日本大震災の避難者に、本や雑誌を求める声が高まっている。新たに買収余裕がなく手元にある一冊をぼろぼろになるまで読む人や、避難所の近くに図書館がないため趣味を失った読書家も多い。長岡市や三条市などでは、図書館が避難所へ本の差し入れを始めている。

長岡市北部体育館に避難している福島県南相馬市の佐藤肇さん（76）は、津波で約千冊の小説ごと家を失った。読書が趣味だった日常は一変。「本が流された

長岡市北部体育館に避難している福島県南相馬市の佐藤肇さん（76）は、津波で約千冊の小説ごと家を失った。読書が趣味だった日常は一変。「本が流された

のが一番ショックだった。今はここでもらつた文庫本を大事に読んでいます」

同じく南相馬市から来た女性（77）の自宅は、自主避難対象の30キロ圏内。わが家が心配だが「本を読んでいると気が紛れる」という。

長岡市の避難所の担当者は「図書館や書店、コンビニまで遠い避難所が大半で、情報から隔絶される不安を感じている」と説明する。

同市中央図書館は市民に中古本の寄付を呼び掛けており、28日までに避難所4カ所に800冊を贈った。三条市でも、市立図書館が20日に小説など一般書や児童書約700冊を4カ所の避難所に届け

差し入れされた本を選ぶ避難者＝長岡市の北部体育館

は860冊が置かれている。柏崎市立図書館では4

避難所に子ども用約70冊を配り、ボランティア団体にも大人用の200冊の配布を頼んだ。新潟市も29日、市体育館と市西総合スポーツセンターに市内の各図書館から集めた計約300冊を配置した。同市立中央図書館（ほんぽーと）は「市民に本の寄付を呼び掛けることも検討している」という。

長岡市中央図書館では、絵本やベストセラーの本などが集まっている。「中越地震の避難所でも本は重宝された。もう少し幅広いジャンルがあるとありがたい」と話している。

（写真：新潟日報社）